

---

# 死神

？？？

---

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神

### 【Zコード】

Z5773L

### 【作者名】

???

### 【あらすじ】

2050年 2月2日西南高校に通う2年生 水月 四海 すい  
げつ しかし は普通の高校生よりは少しモテていた。ある時、道端を歩いていると、遠くからはよく分からぬが、何かが落ちていた。近づいてみると、それは何かの玉だつた。四海はそれを拾おうとした、その瞬間！！ 玉はどこかに行つたしました。四海は何事もなかつたように家に帰つた・・・・

はじめつ・・・

四海「ただいま。」

美里「お帰りなさい。」

美里と言つのは、俺の母さんである。

母さん「四海　お風呂に入っちゃいなさい。」

四海「へーい」

このとおり、俺に父親はいない。俺が小学2年生の時に海外に行つたきり、帰つてこない。

四海「とこりで、母さん今日の晩飯は?」

母さん「ご飯に唐揚げと味噌汁など、その他もうもうですー。」

四海「ア~解

四海が着替えを取りに自分の部屋に入ろうとしたとき、

四海「あっ!学校に忘れ物した!!!」

母さん「あ~わざわざ取りに行つちゃいなさい」

四海「へーい」

四海は急いで家を飛び出した。四海が一生懸命走つてると、四海の横をものすごいスピードで何かが通り過ぎて行つた。

四海「何だ　あれは??

四海「まあ　いいや」

つといいながら、四海は急いでようやく四海は自分の学校の前に着いた。急いで、自分の教室に走つてこつた。・・・ガラ~ガラ! ガラ! 教室のドアを開けると、そこには・・・何かうごめく者がいた。

四海「なにをしてる?」

?「ん?」

そいつは低い声をしていて、身長は俺より少し高くて黒っぽいマン

トみたいなやつを羽織つていた。

四海「お前誰だ!?

? 「我が名は、スタイル」

四海「スタイル？・・・フフ・・ハハハハハハ 面しれ～名前」

スタイルは表情を変えて言った。

スタイル「なぬ！！」

四海「まあまあ、そんなに怒んなつて」

四海「ん？ なんだそれ？」

四海はスタイルの持つている物に気がついた。

スタイル「お前これが見えるのか？？」

四海「あ～はつきり見えるぜ」

四海「てゆうか、それここに来る前に俺の横を通り過ぎたやつだ」

スタイル「そうだつたのか、これは我が国に代々伝わる宝玉

スター」

四海「ふ～ん」

スタイル「【ふ～ん】ってそれだけか？何か質問とか疑問とかないのか？」

四海「じゃあ、何をするための 宝玉ですか？」

スタイル「これは 我が国と人間世界を繋ぐための物である」

四海「そうゆうことか、だつたらそれがあればお前たちの世界にいけるんだよな？」

スタイル「まあ そうゆうことだな」

四海「よし 分かった」

そう言つと、四海はスタイルから宝玉を奪つた。・・・その瞬間！

宝玉から強い光が放たれ、四海の体を包んだ。そして、四海は倒れた・・・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5773l/>

---

死神

2010年10月11日01時42分発行